

戦略
2

強みを伸ばす

大消費地に近く、広大な水田と高い生産技術などの本県の強みを最大限に生かし、成長産業としての農業の更なる発展を図ります。

KPI(重要業績評価指標)	現状値	目標値(2025年)
販売額1億円以上の先進的園芸経営体数	25 経営体	38 経営体
50ha規模以上の園芸メガ産地数	2 産地	7 産地
30ha規模以上の土地利用型農業中核経営体数	194 経営体	450 経営体
一貫経営・乳肉複合経営体数	225 経営体	310 経営体
牛飼養頭数200頭以上の経営体数	71 経営体	90 経営体
PR可能なユニークセリングポイント*を発掘した品目の数	—	5 品目
環境変化や時代のニーズに対応し新たに開発した品種・技術数	—	44

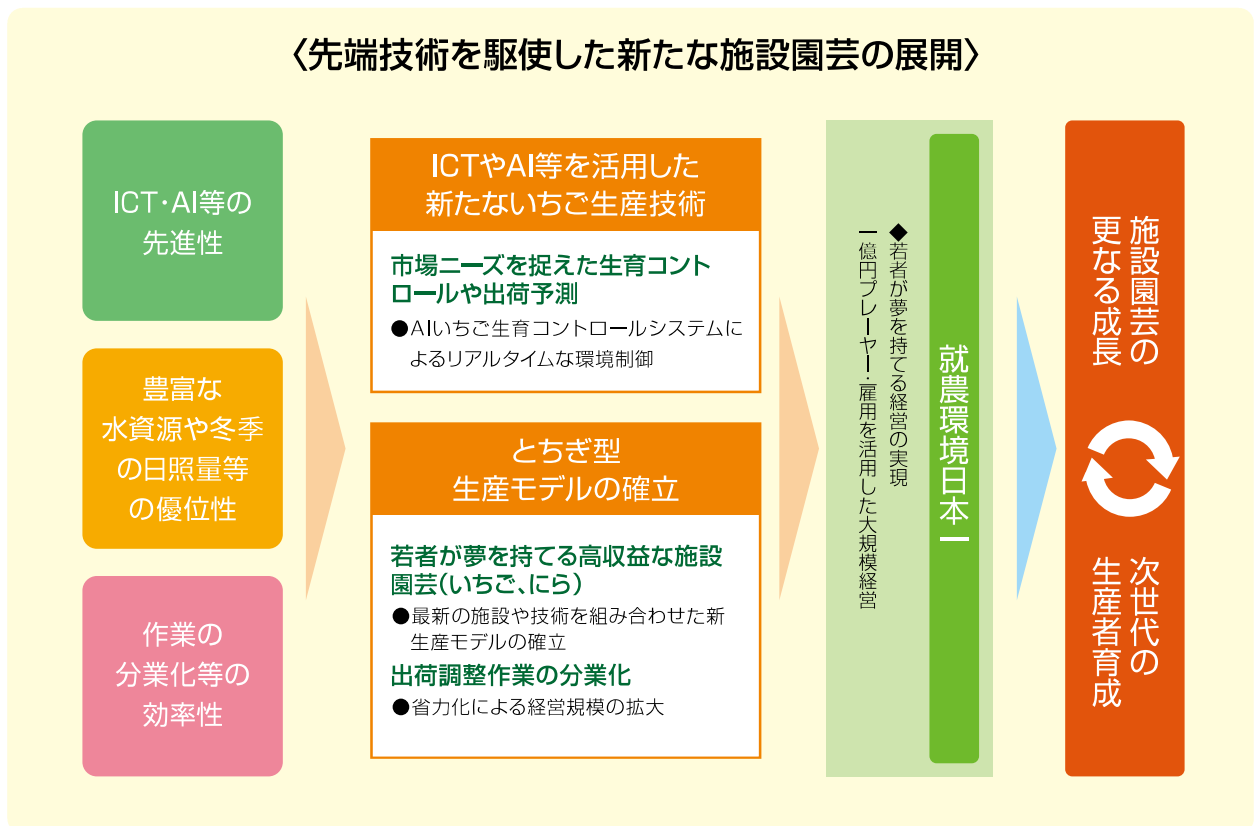
※他産地の農産物と比較した際の本県産特有の強み

(1) 新たな施設園芸の展開

【展開方向】

AIを活用した生産システムや本県オリジナルの高収益生産モデルの開発・普及に取り組み、施設園芸の収量や品質の飛躍的な向上を図ります。

〈先端技術を駆使した新たな施設園芸の展開〉



【主な取組内容】

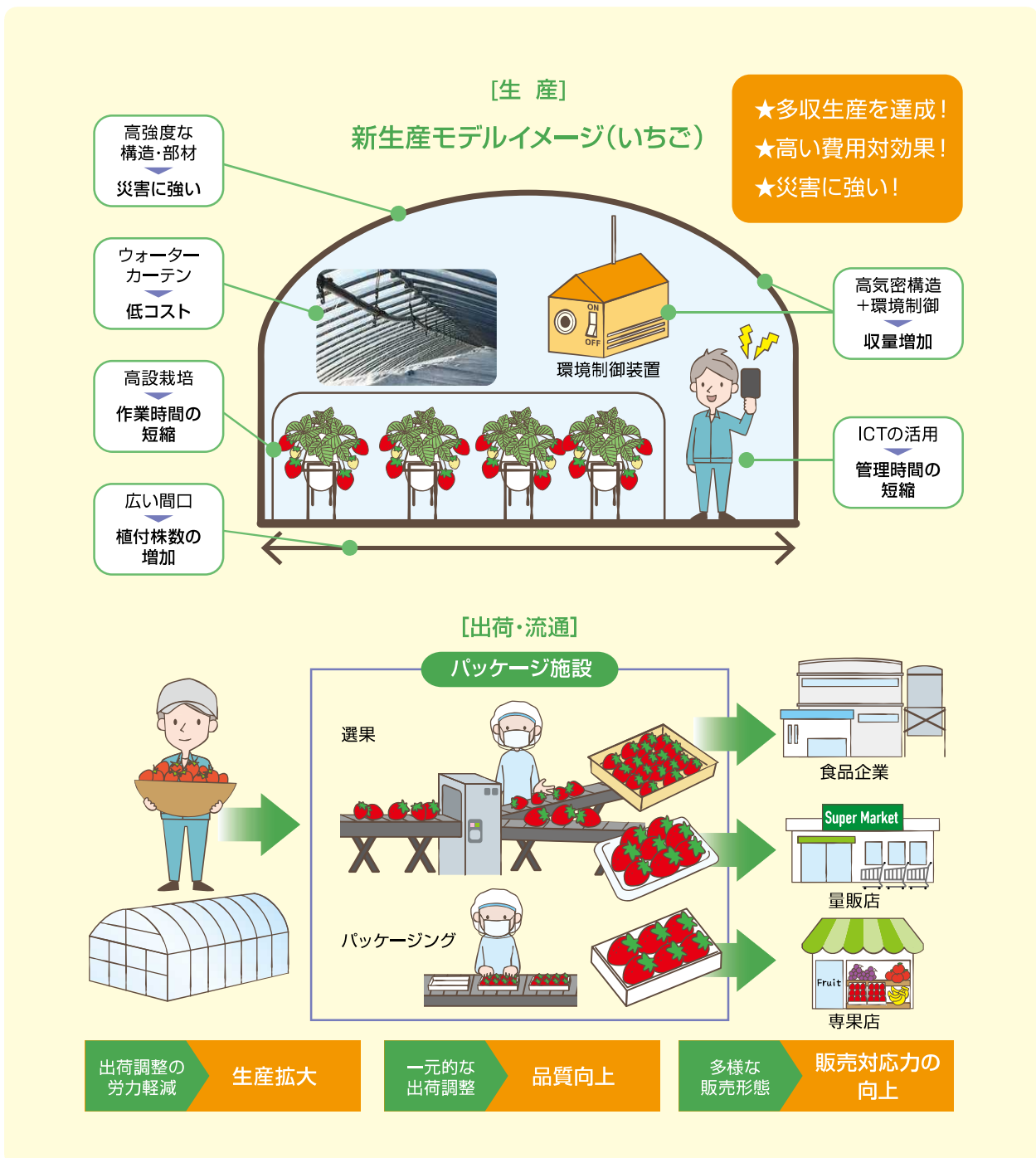
① ICTやAI等を活用した新たないちご生産技術の開発・普及

- ◆ 官民連携による、AIを活用したいちごのリアルタイムな環境制御を用いた生育コントロールシステムの開発
- ◆ 正確な出荷予測を生かした需要対応力が高い戦略的な流通・販売の確立

② “就農環境日本一”を目指すとちぎ型生産モデルの確立

- ◆ 農業者の高い技術力や豊富な水資源などの優位性を生かし、最新の施設・設備・技術を組み合わせた高収益な生産モデルの確立
- ◆ 省力化や規模拡大のためのパッケージセンター整備など効率的な分業体制の構築

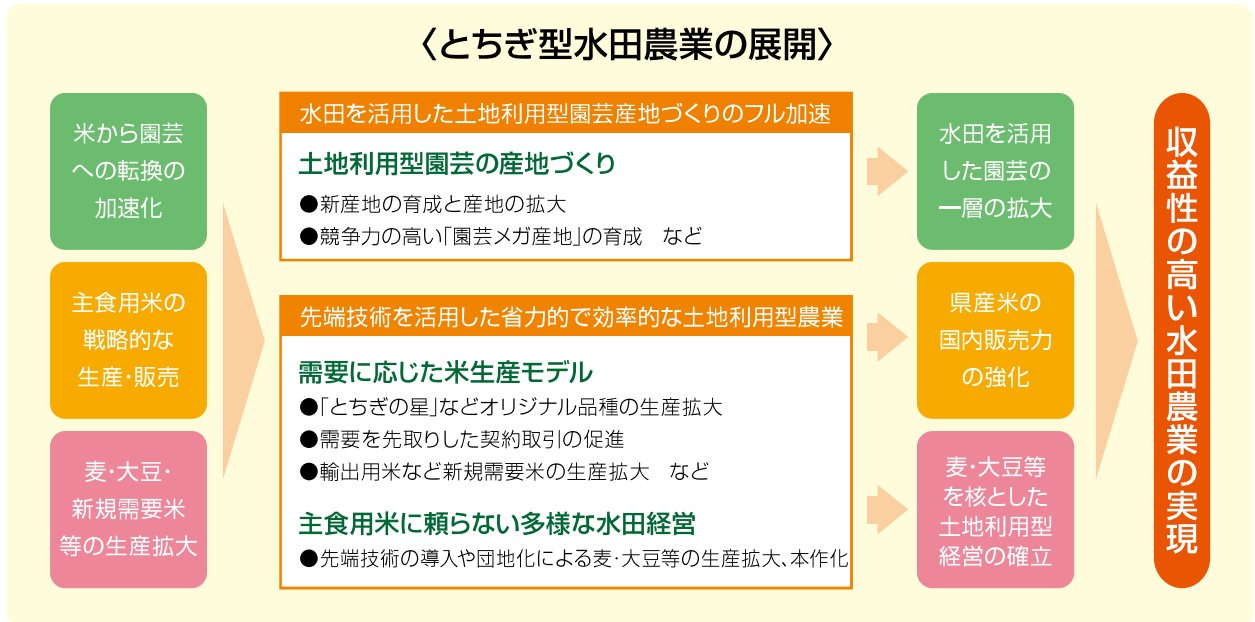
とちぎ型生産モデルの展開



(2) 稼げる水田農業の実現

【展開方向】

水田を活用した競争力の高い大規模園芸産地の育成を進めます。また、先端技術の導入や団地化を進め、省力的で効率的な稲・麦・大豆の生産体制を確立します。

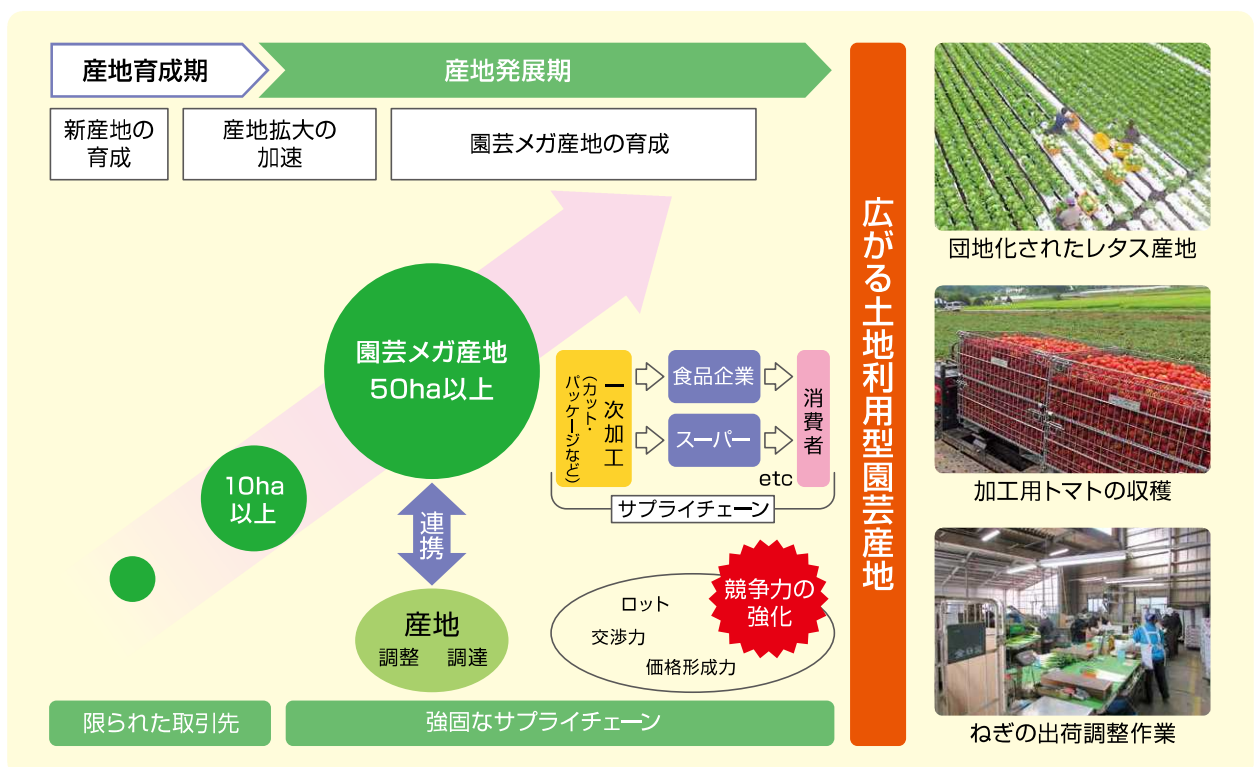


【主な取組内容】

① 水田を活用した土地利用型園芸産地づくりのフル加速

- ◆ 露地野菜をはじめとする産地拡大の加速化により、価格形成などで高い競争力を持つ「園芸メガ産地」の育成
- ◆ 複数産地の連携や一次加工(カット、皮むきなど)による需要対応力の高いサプライチェーンの構築の促進

園芸メガ産地の育成



② 先端技術を活用した省力的で効率的な土地利用型農業の推進

- ◆「とちぎの星」など本県オリジナル品種の生産拡大と先端技術を活用した低コスト生産の推進及び業務用などの需要に的確に対応した契約取引等の促進による販売力の強化
- ◆ 農地の大区画化や先端技術導入による作業の省力化に加え、一層の生産性向上を図る団地化の促進による大豆や麦、新規需要米等の生産の拡大
- ◆ 米の輸出拡大に向け、多収品種・低コスト化技術の導入や輸送コスト低減、さらには米加工等に取り組む産地づくりの促進

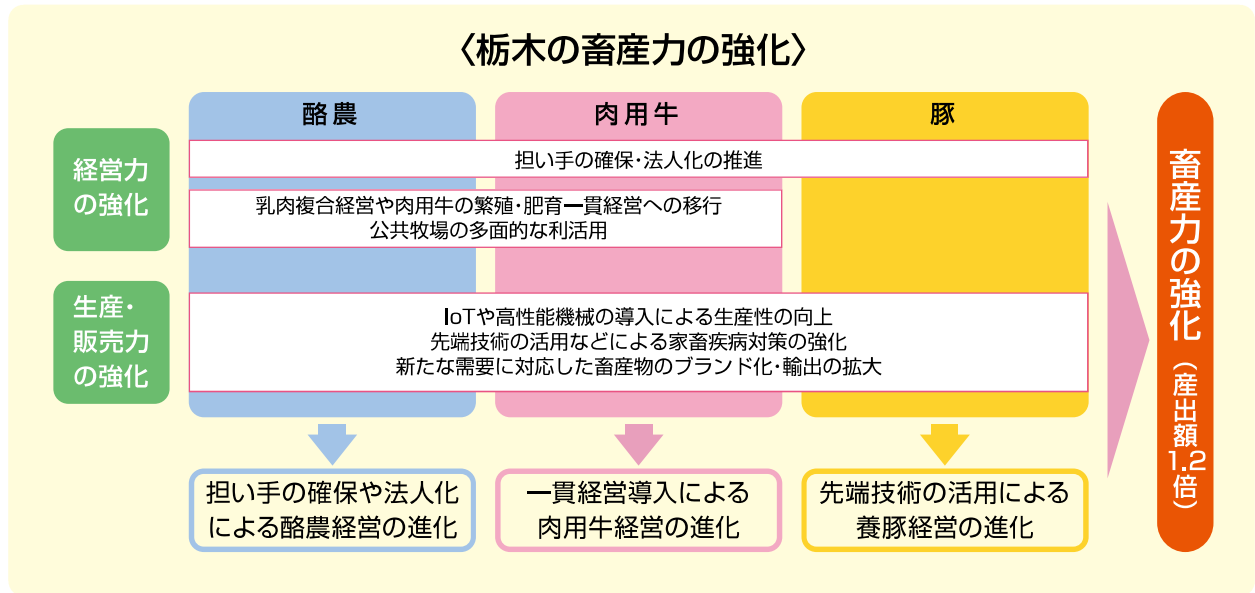
産地の育成と相手国における需要喚起による米の輸出拡大



(3) 栃木の畜産力強化に向けた展開

【展開方向】

本県畜産の産出額拡大(平成30(2018)年比1.2倍)を目指し、担い手の確保と経営形態の多様化を図るとともに、AI・IoTの活用や家畜の伝染性疾病対策等の推進による生産性やブランド力の向上に取り組み、経営力及び生産・販売力を高めていきます。

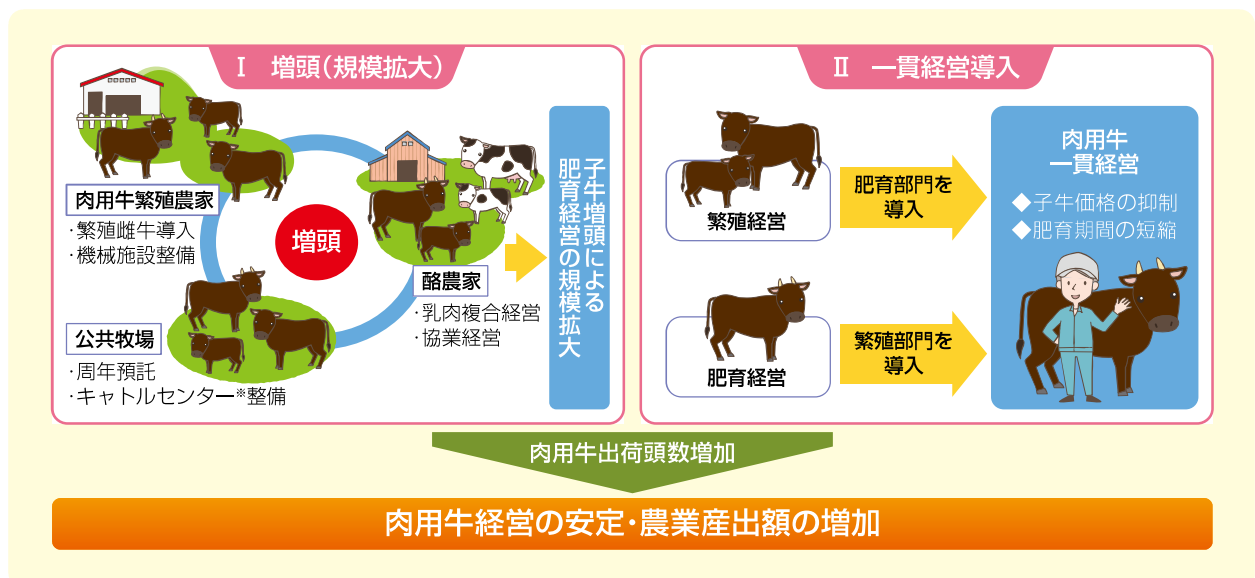


【主な取組内容】

① 担い手の育成や多様な畜産経営の展開による経営力の強化

- ◆ 酪農や肉用牛における新規参入希望者や規模拡大を志向する農業者への遊休畜産施設等の継承システムの構築及び畜産農家の法人化の推進
- ◆ 酪農の乳肉複合経営や肉用牛の繁殖・肥育一貫経営導入による経営体質の強化
- ◆ 周年預託、広域利用及びキャトルセンター*等による公共牧場の機能強化

肉用牛農家の規模拡大・一貫経営導入による経営体質の強化

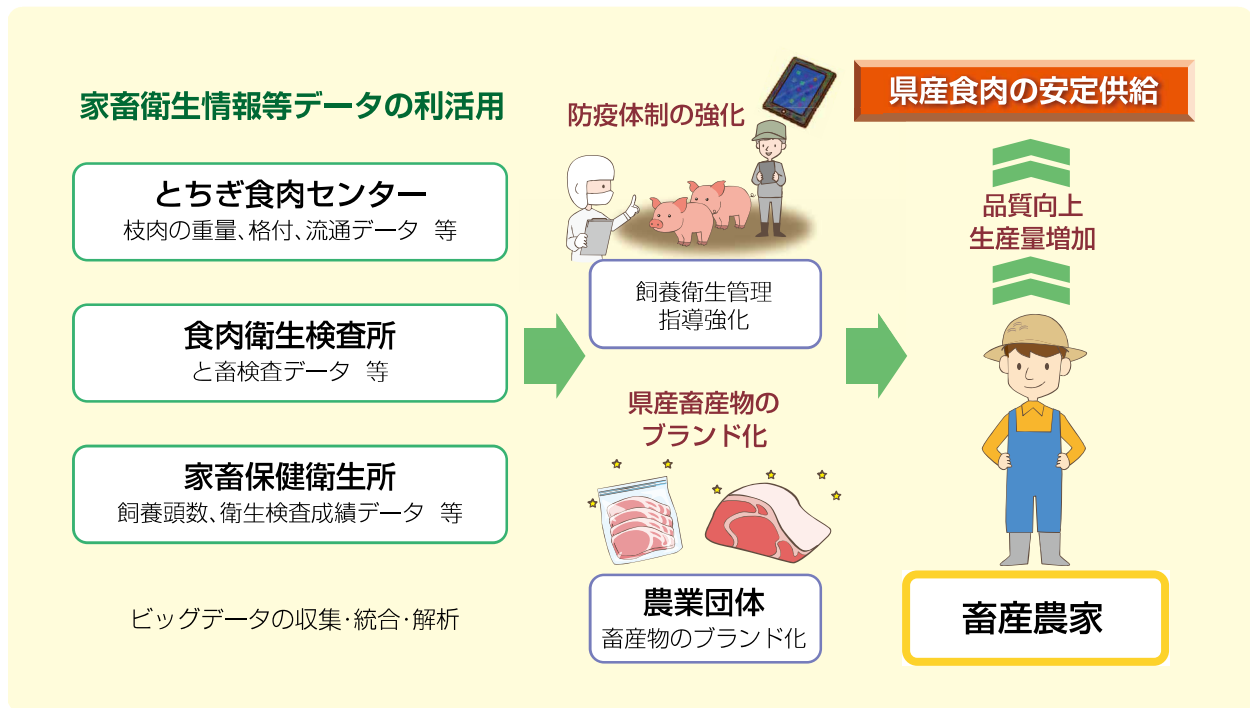


* キャトルセンター：生産者から子牛を預かり、管理育成を行う施設

② AI・IoTなどの先端技術等を活用した生産・販売力の強化

- ◆ AI・IoT高性能機械等の積極的な活用による飼養管理・繁殖管理の効率化の促進
- ◆ EBL※陰性後継牛の安定供給によるEBLの清浄化及び豚熱(CSF)対策の推進
- ◆ ビッグデータを活用した家畜疾病対策の強化等による県産食肉の品質及び生産性の向上
- ◆ 多様な需要(家庭需要・高級志向)に対応した畜産物ブランドの育成及び牛肉の輸出拡大

検査情報などのビッグデータの利活用による県産食肉の安定供給

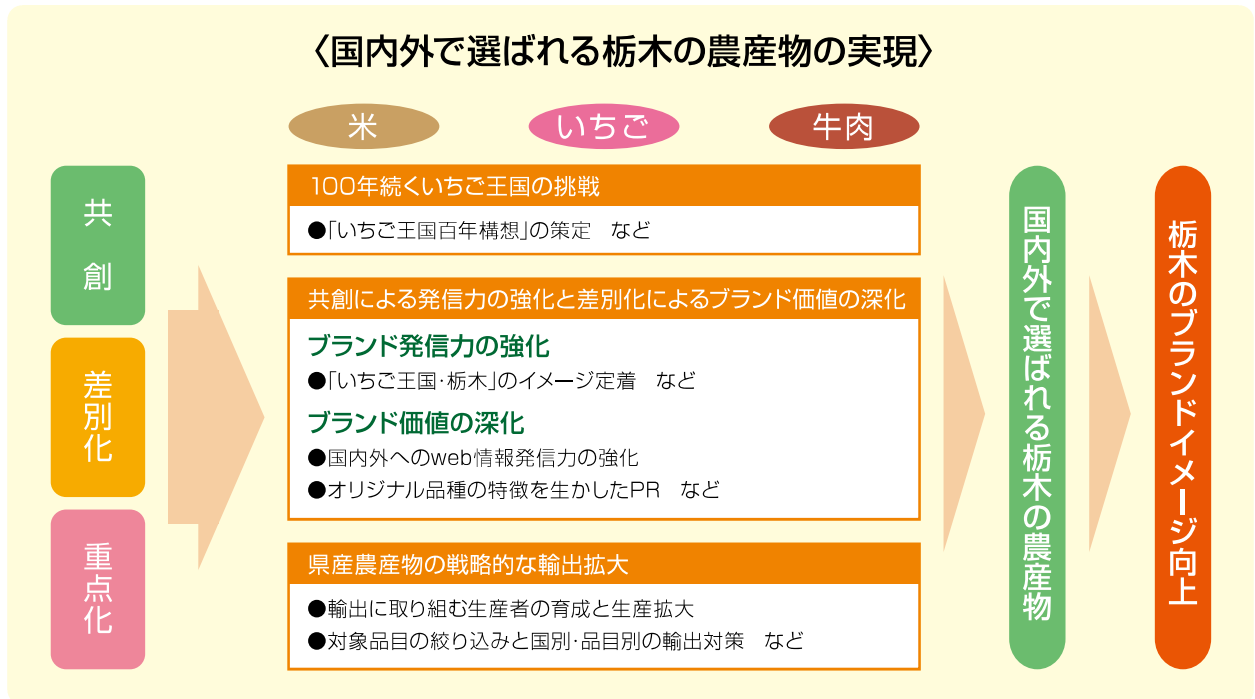


※ EBL：牛伝染性リンパ腫の呼称、白血球が腫瘍化する牛の慢性疾病の一種

(4) “選ばれる栃木の農産物”の実現

【展開方向】

「いちご王国・栃木」を最大限に生かしてブランド発信力を強化するとともに、オリジナル品種のブランド価値の深化を図り、国内外で「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。



【主な取組内容】

① 100年続くいちご王国への挑戦(いちご王国の将来展望)

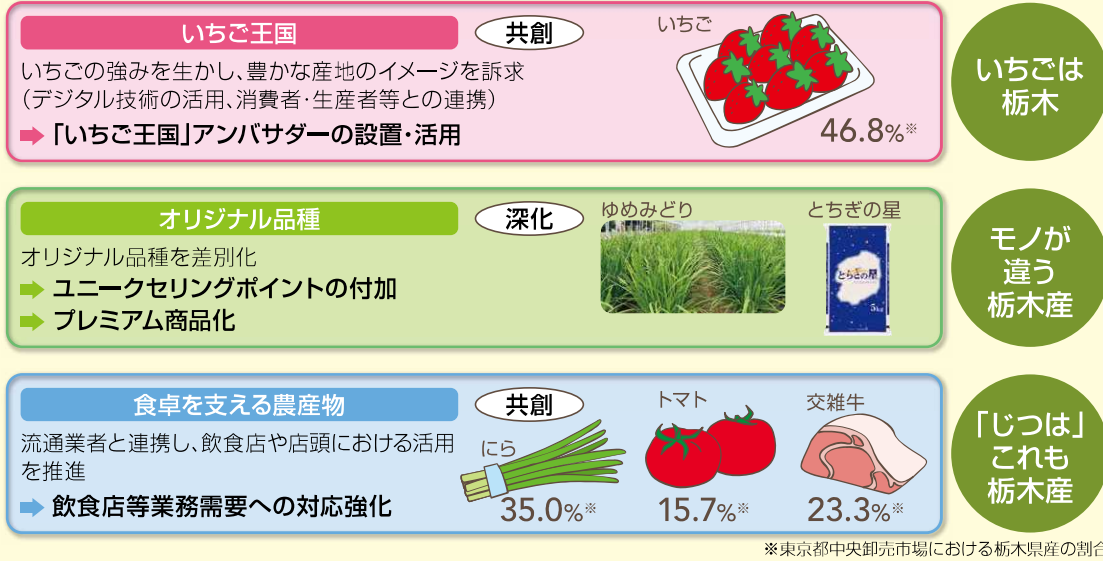
- ◆ 「いちご王国・栃木」の持続的な発展に向けて、目指す姿とその達成に必要な取組の方向性を明らかにした「いちご王国百年構想」の策定

② 共創による発信力の強化と差別化によるブランド価値の深化

- ◆ 「いちご王国」アンバサダーの活用等による「いちご王国・栃木」のイメージの定着
- ◆ 県産農産物のweb情報発信力の強化とオリジナル品種独自の成分や調理特性などのユニークセリングポイントを生かしたブランド価値の向上
- ◆ 「日々の食卓を支える・栃木の農産物」の生産力の強化と利活用の促進
- ◆ 環境負荷軽減技術の普及や栃木県GAP規範に基づく実践者層の拡大

「選ばれる栃木の農産物」の実現

「いちご王国・栃木」のイメージのもと「オリジナル品種」や「食卓を支える農産物」のブランド価値の向上



*東京都中央卸売市場における栃木県産の割合

③ 牛肉、米、青果物を中心とした県産農産物の戦略的な輸出拡大

- ◆ 輸出に取り組む産地の育成と相手国のニーズを踏まえた品目別輸出の戦略的な展開
- ◆ デジタル技術等を活用した情報発信など新たな時代に即した海外ファンの獲得と販路の拡大

農産物輸出額目標 10 億円に向けた戦略

主要輸出品目	主要ターゲット国・地域	取組の方向性
<p>牛</p>  <p>肉</p>	シンガポール アメリカ EU タイ ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> 輸出に取り組む生産者確保、和牛に加え交雑種の輸出による輸出頭数の拡大 タイ、ベトナム等の新たな輸出先国の開拓 高級部位(ロイン系)以外も含めたフルセット輸出の促進
<p>コ</p>  <p>メ</p>	シンガポール 香港 アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> 多収品種の導入に加え、ドローン等の省力化技術の活用に取り組む産地づくりの促進 コメ加工(バックご飯、米粉等)に取り組む産地づくりの推進
<p>いちご</p> 	シンガポール タイ マレーシア 香港	<ul style="list-style-type: none"> 産地と輸出事業者が連携したモデル産地の育成 長距離輸送に対応した品質保持(品質、荷傷み)技術の導入支援 「とちあいか」の県内での普及拡大に合わせた輸出の促進
<p>な</p>  <p>し</p>	シンガポール インドネシア マレーシア タイ 香港 アラブ首長国連邦	<ul style="list-style-type: none"> 輸送ロスの減少に向けた生産技術指導による産地育成 「にっこり」の秀品規格に加え、優品規格の輸出による販路拡大

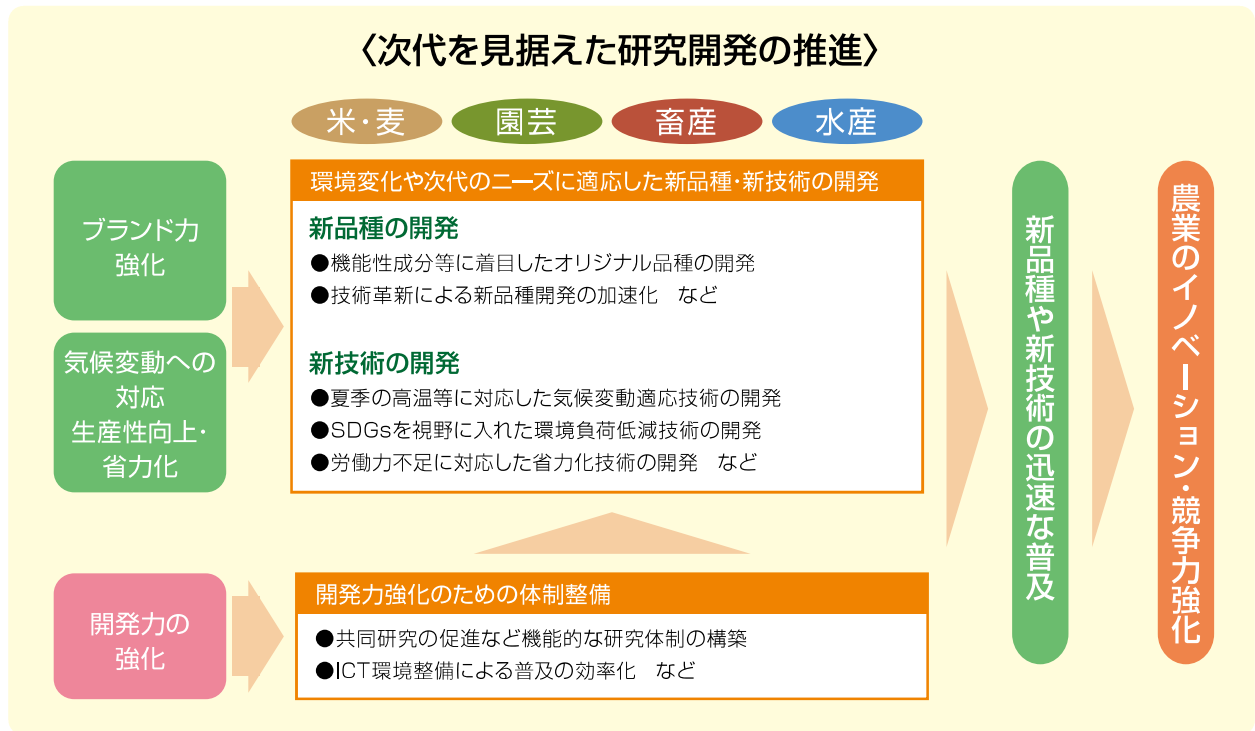
品目共通

- ・生産者の「輸出への意欲醸成」「試験輸出」「本格輸出」など輸出ステップに応じた支援
- ・輸出先国との関係を踏まえた海外プロモーションやバイヤー招へいの効果的な実施
- ・北関東3県連携による合同輸送やプロモーション
- ・オンラインによる県産農産物のPR動画や情報の海外発信を通じた県産農産物ファンの獲得・拡大
- ・インバウンドや各国駐日大使を対象とした観光や農産物の一体的なPR

(5) 次代を見据えた研究開発の推進

【展開方向】

本県農業の顔となるオリジナル品種や生産性の高い新技術の開発を進めるとともに、気候変動やSDGsなど環境の変化や時代のニーズに適応した農業技術の開発・普及により、本県農業のイノベーションを進めます。



【主な取組内容】

① 環境変化や時代のニーズに適応した新品種・新技術の開発

- ◆ 消費者の健康志向など時代のニーズを捉え、新規の形質や特性等に着眼した栃木のブランド力を高めるオリジナル品種の開発
- ◆ 温暖化による品質や収量への影響等を抑制する気候変動適応技術及び生分解性資材の活用による環境負荷低減技術など、環境変化に対応した新技術の開発
- ◆ 飛躍的な生産性向上や超省力化など、担い手の高齢化や労働力不足に対応した革新的な栽培・飼養技術の開発

② 開発力強化のための体制整備

- ◆ 大学や民間企業との共同研究の促進や効率化に必要な設備の整備、計画的な人材の育成等による次代を見据えた機能的な試験研究体制の構築
- ◆ 成果をより迅速に普及するための現地実証試験の再編やICT活用環境の整備など、効率的な普及体制の構築

試験研究の重点テーマ

- 1 栃木のブランド力を高める農産物の開発
- 2 気候変動をはじめとする環境変化に適応した生産技術の開発
- 3 生産力の向上や省力化を実現する革新的な技術の開発
- 4 農産物の新たな価値を創出する技術の開発
- 5 地域の活力や魅力向上につながる技術の開発



多様な需要に対応した品種の開発



気候変動に対応した
品種・技術の開発



家畜の効率的な改良増産技術の開発

県が開発した主な品種・技術



酸味が少なく、甘さが際立ついちご
「とちあいか」



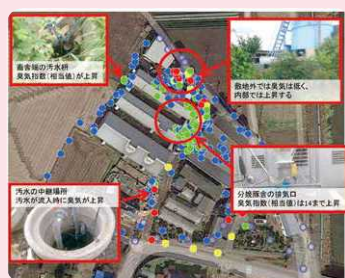
縞葉枯病に強く、高温登熟性にも優れる米
「とちぎの星」



八重咲きで白いふちどりが
特徴のあじさい
「エンジェルリング」と
「プリンセスリング」



品質に優れ、連続収穫に適するから
「ゆめみどり」(左)



畜産施設における臭気分布と強弱を視覚化する技術
「臭気マップ」



年間を通して大型個体を
出荷可能にしたサクラマス
「全雌三倍体サクラマス」